

郷土史学習会について

宮原 彩 (当館嘱託)

はじめに

本稿では、平成16年10月に行なった「第3回 郷土史学習会～民俗学的フィールドワークとは～」の事業内容を報告する。

西宮市立郷土資料館では、平成15年度より「郷土史学習会」という事業を行なっている。これは郷土史を総合的に学ぶための方法を学習しようというもので、様々な分野の中からテーマを設定し、2日～3日間連続して行なう。最初に専門家の講義を聞き、その後実習を行なうスタイルで実施している。定員は15名に設定し、少人数で専門的な実習も交えて学べるようにした。

1. 過去の郷土史学習会

まずは第1回目・2回目の概要を簡単に説明しておきたい。

第1回目は平成15年9月20日・27日・10月4日の3日間、「石文の調査・研究」というテーマで行なった。1日目は、石造物の調査方法について摂陽文化財調査研究所の古川久雄氏に講義をしていただいた。2日目は西宮神社境内で拓本を採る実習を行ない、3日目は拓本の講評と採拓の意義についての講話があった。拓本を初めて体験する方がほとんどで、拓本を採るコツなどを実際に古川氏の採拓を見ながら学び、西宮神社境内の石燈籠の側面の拓本を採った。身近にある石造物を拓本という形で資料化できるということ、歴史学習のアプローチのひとつとして活用できることを知ってもらえた。

第2回目は平成16年2月14日・21日・28日の3日間、「西宮の歴史を学ぶ～館蔵の歴史

資料を使って西宮の歴史を学ぼう～」というテーマで、古文書の扱いとそれを利用した郷土史の研究法について学んだ。1日目に関西学院大学名誉教授で本市文化財審議委員の加地宏江氏に「史料調査と歴史研究」の講義をしていただき、2日目・3日目は実物の古文書に触れ、古文書の扱い方を学び、記されている内容を読み、そこから郷土史をどう読み解くかの実習を行なった。2日目は「市役所所蔵『宗旨人別帳』を使って近世西宮町について学ぶ」、3日目は「鳴尾支所文書『年貢免状』を使って近世西宮の村落について学ぶ」というテーマで、西宮の町と村、それぞれの近世史を学ぶ方法を実習した。

そして第3回目は、民俗学の分野から郷土史を読み解くには、ということで「民俗学的フィールドワークとは」というテーマを設定した。

2. 民俗学的フィールドワーク実習

第3回目の郷土史学習会は、平成16年10月23日・24日の2日間実施した。

1日目は神戸女子大学教授（民俗学）の田中久夫氏に「民俗学の調査とは」について講義をしていただいた。民俗学という学問の概要と、民俗学を研究する上での聞き取り調査の重要性の話をうかがった。民俗学では聞き取りが大切な資料となることとお話しされ、ご自身の聞き取り調査とそこから研究成果になっていく例も数多くお話しいただき、一般の方々には少しわかりにくい「民俗学」が身近な学問として感じられるようになったと思われる。

2日目は、前日の講義を踏まえて参加者に聞き取り調査の実習をしてもらった。本来ならば実際の民俗調査のように1つの地域を定めてその方々から聞き取り調査を行なうべきなのであるが、今回は聞き取り調査とはどのようなことをするかという初歩的な実習であるので、参加者同士で聞き取りをしてもらうことにした。参加者2人1組になり、それぞれ聞き手と話者、交代で両方を体験することになる。

聞き取り調査のテーマは、田中久夫氏の講義のレジュメに『日本民俗学入門』（柳田國男・関敬吾共著、名著出版）の「年中行事」の質問項目が資料として添付されていることと、比較的参加者が話をしやすく聞きやすいものが良いということで、「年中行事～正月を中心として～」に決めた。

実習参加者は12名で、市内出身者が4名、市外出身者が8名であった。現在は10名が市内在住、2名が市外在住である。市外在住の内1名は市内出身、市外出身者も西宮居住が

長い。近年多い「最近よそから引っ越してきたばかりで、西宮のことはあまり知らない」という方々ではなかった。

聞き取りの前にまず、民俗学の聞き取り調査における基本的な注意点を話し、その後、テキストを元に各自聞き取り実習を始めてもらった。

最初は手探り状態であったが、質問項目の意味・意図などを個別にまわりながら説明していると、そのうち書き留めていく手もおいつかないほど話が弾んでいった。やはり「正月」というのは身近なテーマであり、双方にある程度の民俗的知識と経験があるため、聞きやすく話しやすかったのであろう。約2時間という短い実習時間だったが、実際に聞き取り調査をしてもらうことにより、民俗学という学問への理解も深めてもらえたと思う。

3. 参加者の聞き取り調査成果

2日目に参加者が実習した聞き取り調査の内容は、終了後に回収した。次に掲載する。項目ごとに並べ替えた以外は、参加者が聞き取って書き留めた記載のままにしている。

参加者は先に述べたように、現在西宮市内に在住している方がほとんどであるが、幼少の頃市外で過ごされて成人してから西宮に移って来られた方も多し。したがって、西宮で古くから行なわれている習俗と、市外における習俗をそのまま西宮でも行なっているものが混在している。ここでは、市外出身の方が「幼少期に育った土地での話」と特におっしゃっているものについては、文末に(※)印をつけた。

聞き取りの調査テーマは「年中行事」の「正月」であったが、話が発展して他の季節の年中行事についても多少の聞き取りがあったので掲載する。

参加者の聞き取り調査内容については、調査報告書としてではなく、聞き取り実習の成果として掲載する点をご留意願いたい。

第3回郷土史学習会「民俗学的フィールドワークとは」 実習での聞き取り内容

調査日：平成16年（2004）10月24日（日）

調査項目：年中行事～正月行事を中心に～

《年中行事》

節という言葉

- ・節季（セッキ）と言っていた。1月1日、2月2日、3月3日、4月4日・・・12回 あり、1月1日は元旦、3月は桃のセッキ、等々。
- ・お正月はオセチ料理として「セチ」という言葉を使っている。

正月の呼称

- ・正月は3カ日。
- ・元旦から7日までを松の内と言った。シメナワは7日にとりはずす。
- ・1日～7日までを大正月、1日～15日を松の内、15～20日を小正月という。
- ・元旦から七草までを正月といった。

禁忌

- ・1月1日から3日間は、刃物を使わない、火をおこしてはいけない。大つごもりから火種は置いておく。新しくは火をつけない。
- ・元旦は掃除をしない、お風呂も入らない。お風呂は2日のお昼に入る。

正月の準備

- ・準備は母親がする。ご用聞きが注文を取りに来る。樽で醤油を買う。和菓子（重箱に入ったもの持ってきて）の注文を取りに来る。膝の上でそれを見ていた。
- ・お料理の材料は、12月になると用意する。12月初旬より材料を買い求める。
- ・ぼうだら、黒豆、干かずの子、くわい、ゆり根、栗、ごまめ、高野豆腐などは早くから用意する。大根、人参、れんこん、ごぼう、卵焼（厚焼）、かまぼこなどを用意する。
- ・正月行事は男の仕事。女性を解放。初めから終わりまでです。

- ・買い物は、通い帳でつけて買っていた。

もちつき

- ・もちつきは、家についていた。戦後、賃つき屋がきて12月28日頃ついていて。小学校に入るころまで、もちを丸めるのを手伝った。
- ・臼でもちつきをする。4俵をつく。30日に行う。西宮ではもちつきの餅は餅屋で注文。餅箱で1枚買う。
- ・正月用もちは、お餅屋に注文する。餅箱に一杯であった。
- ・現在も、隣の実家で大勢です。

門松

- ・雄松・雌松。根付き。幕引き（紋つき）。
- ・門松を立てる。根付きの松。
- ・松の枝1本を玄関の両脇に飾る。門松という大きなものはない。
- ・松は、門の外側に門松を立てる。松、竹、梅、葉ボタンで飾る。
- ・根っこのついた松（若木の）を飾った。市場などで買ったもの。玄関入り口の両脇に立てる。笹がついたものである。名称はわからない。
- ・松、竹を飾る。松は門柱の両側に釘で打ち付ける。竹は束ねて打ち付ける。

しめなわ

- ・ごんぼとって、太い飾りもの。めがめとって、便所・神棚・井戸・手水に飾った。
- ・しめ縄は普通。現在は自作。
- ・商店街で購入。玄関に飾る。
- ・門柱に松の枝（長い）を飾り、玄関の正面にしめなわ。細い長いしめなわを家の周りにぐるっとめぐらせる。（※）
- ・注連縄は、玄関、神棚、台所、便所に飾る。一夜飾りは避ける。
- ・標準時は4～5万円の正月飾りを飾る。注連縄。
- ・しめ縄のみ玄関に飾る。松かざりはなし。

お飾り

- ・トイレ、風呂にワラのしめかざりをした。年をとらせるような行事はなかった。
- ・日常生活の場には、松の小枝を餅といっしょに飾る。柳の枝に餅花を飾る。井戸・オクドサン・便所などに飾るが、新しく棚は作らない。
- ・車に飾りをつけた。車をひく牛には大麦を普段より多く食べさせた。
- ・注連かざりとおそなえ餅は、床の間・神棚・玄関・台所・便所に飾る。九日（くんち）もちをさける。
- ・もち花を部屋の隅のかもいに飾る。

床の間飾り

- ・年ごとに変え（鶴・日の出などの）、軸を飾る。三方に鏡もち、水引は生ものから水引きに変わる。

鏡もち

- ・鏡もちは、床の間用・神棚用・仏壇用の三組。30日に飾る。鏡もちの飾りは、方の上に奉書紙・うらじろをひく。ゆずり葉。もちをのせ、昆布・串干し柿・ダイダイをかざる。
- ・裏白やみかんと二段に重ねた餅を大飾りとして床の間に、小さいお供えを子供部屋、台所、居間などに数多くお供えしていました。すべて三方にのせていました。床の間の鏡餅の前には、野菜や魚を供えていた。大体3ヶ日でしまっていた。（※）
- ・おそなえ餅は、床の間、神棚、玄関、台所、便所に供える。
- ・かがみもちは床の間に飾る。小もちを台所・かまど・トイレに供える。

神棚

- ・神棚はない。時々おじいさんおばあさんが正月の朝に柏手をうっていた。
- ・神棚は、よく掃除して、古いお札を新しいものに変えたりする。

初水

- ・初水を汲みにいく習慣はない。
- ・朝、ポンプでくんでいた。かすかな記憶。
- ・近所の井戸、神社の湧水を大晦日31日に汲みにいく。主人と男の子全員で行く。台所（オクドサン）の前に供え、樋（桶カ？）に入れ、ゾウニに使う。（※）
- ・水道を使っていたのでしない。

初詣

- ・家族全員でおぞうにを食べてから初詣。それからおじいさんおばあさん宅へ年賀の挨拶。昭和30年頃は、おぞうにを食べてから登校していた。
- ・正月には初詣として近くの神社（広田神社）に家族一緒に未明から参ります。
- ・主人と共に揃って神参りをした。特別な言い方はない。
- ・氏神様に詣でる。
- ・宮参り。主人とは関係なく個人で参る。役という意識はない。
- ・神参りは別になし。父が銀行員で大晦日遅くに帰るから、神参りをしていたかどうか分からない。

正月料理

- ・おもち、数の子、黒豆、ごまめ、にしめ。ごちそう。
- ・お雑煮、ごまめ、くわい、ちくわ、おせち料理。年越しそばで年を取ったと感ずる。
- ・もち、おせち料理、おぞうに、干し柿、ごまめ。

お膳

- ・1人1人出る。男性（朱塗り、膳も椀も）上座、女性（黒塗り、膳も椀も）下座。

おせち料理

- ・いちの重～参の重。おせち料理は12月31日に用意する。

・おせち料理として食べていたもの。黒豆、くわい、数の子、昆布、にしん、たら、酢の物、百合根。

もち

・丸小餅は小正月を過ぎて田舎から送ってきたものを食べる。
・かめの中の水に、餅を三ヶ日すぎにつける。
・おもち丸もち。

おぞうに

・1日目は、丸もち、白味噌仕立て、大根・人参など。2日目と3日目は、丸もち焼、すまし仕立て、水菜。
・3ヶ日行なう。白味噌+赤みそ、具は大根・人参・小いも・とり・うす揚・みつ葉。
・ぞう煮用もちは丸もちであった。
・角もち、具は小松菜のみ。
・雑煮は鶏肉で味噌味であった。(※)
・野菜(大根、コイモ)、餅(形はこだわらない。焼かない)、魚(塩ざけ)を入れた。これは新潟の風。(※)
・大根、里芋、かつおぶし、澄まし汁。餅は四角で焼く。食べるときはのりとかつおぶしをかける。(※)
・1、2、3日とも、お雑煮の内容が異なる。1日は味噌、2日はおすまし、3日は小豆。(※)

挨拶・挨拶回り

・1月1日は年始まわり。祖父が玄関先にて来客の接待。名刺受け盆あり。
・現在は正月になったからと言って挨拶まわりには行っていない。昔は父と共に恩義のある人に参りました。本家から分家へと廻っていく。(※)
・挨拶回りに来た人への食物を勧めるのは、小さいときには酒肴で接待した。
・挨拶参りをする。「旧年中は・・・」等と定まった文句であいさつをする。

・特に何も持参しない。受ける方は上がってもらって、おせち料理を食べてもらうようにすすめる。

・元旦、暗い内に隣のおばあさんの家へ挨拶に行く。

・1月1日の登校時に「あけましておめでとうございます。本年もよろしく願います」と挨拶をした。知った顔にもこの挨拶をする。この挨拶は7日頃までする。

遊び

・凧あげ(奴だこ)、こままわし。何でもやさんで買う。お年玉少ない。子供の頃からお金はあまりもたない。

お年玉

・子供にお年玉を与える。特に挨拶はなく、あげる方からくれる。子供からの催促はない。
・子供に対し、お年玉は現金で渡した。今でも続けている。
・1日にお孫さんにお年玉をやる。
・お年玉を与える。子供たちは「あけましておめでとうございます」といつて来る。
・お年玉は親類のみ。

元旦

・衣服をあらためた。最初だから、いいこと、悪いことするとそのまま続くといった。
・元旦、起床すると新しい下着・服に着替え、皆揃ってお雑煮、父親の年頭の一言あり。隣の母親の実家でおめでとうの挨拶。お年玉。

1月2日

・書き初めをした。
・正月2日には、外に住んでいる子供等が必ず集まって食事会をする。全員で正月に集まる習わしは父母の死によってなくなって今はない。

1月3日

- ・1月3日は女の正月で、布団の上げ下ろしから料理まで男がする。(※)
- ・3日までに書き初めをする。

1月7日

- ・七日がゆ
- ・七草かゆ
- ・七草がゆを食べる。

1月10日

- ・十日エビス。商売でもうける。3日間参って「まるもうけ」。
エビスは耳が悪いので、横（右）から入って横（左）へ出る。西宮エビスは海の近くにあった。
- ・しめなわは7日に取り外して、十日戎に持っていく。前年の吉兆をエビスに持っていく。

鏡開き

- ・1月15日に行ない、もちはずんざいにする。

小正月（1月15日）

- ・小豆正月。15日に小豆入りおぞうにを食べた。
- ・女正月と言った。
- ・メ飾や松飾やメ縄は、家で15日に焼却している。15日に正月飾りを焼却するのが正月行事となっている。
- ・鏡開きをして、餅はずんざいにする。
- ・ミツキとって、餅の団子を枝にさす。どんど焼き（15日）にその餅を焼く。
子供が正月の飾りを集めて河原で焼く。その時にミツキの餅を焼く。(※)

おわりに

平成16年度は民俗学をテーマにした郷土史学習会を行なった。聞き取り調査を行なうには、民俗学の基礎的な知識が必要なのはいうまでもない。しかし、初めての人にとっても「年中行事」「衣食住」などといった生活に密着した身近なテーマがあるので、取り組み

- ・15日にとんどで燃やす。途中中止したが、今又復活した。
- ・15日、かがみもちを割り、小豆と煮る（色々な形のおもちが入っていた）。

節分

- ・マメを食べたら、年とったと言われた。
- ・お正月の鬼。青年団が「タノモウ」→「ドーレ」。接待して帰す。
ヒイラギを門に下げる。

3月4日

- ・雛祭りの翌日。ナグサメという。女の子のみ、野山で食事をする。
- 春祭り・秋祭り（3日間）の前日
- ・海の藻をとってくる。浴衣の帯につける。

6月

- ・火をつけて振り回す（子供の行事）

七夕祭り

- ・飾りは海へ捨てる。

8月7日

- ・3日間水泳禁止。サメの危険。

イノコ

- ・12月～1月（3回）。男の子の行事（小学校1年～6年）。12月の亥の日にする。6年生はタイショウ、1年生はスクモと呼ぶ。50～60cmの石を、縄（布入り）で結び、12～13人で引っ張る。戸別訪問で、ドスンドスン＋歌。穴の深さで長居の時間が分かる。

やすい分野の学問ではないだろうか。

近年、市史町史でも民俗編が次々と出版され、また生涯学習のひとつとして語り部活動なども盛んに行なわれるようになってきているので、民俗学のフィールドワークについて学ぶことは郷土史をより専門的に学ぶために有効な方法であろうと思う。

この学習会を通して「民俗学」をより深く探究したり、民俗学の聞き取り調査の方法を活かした郷土史学習に取り組んでいただけたら幸いである。

寄贈資料一覧（平成13年3月～平成16年3月、敬称略）

大野麦風画白鹿促販絵はがき・国債用封筒・白鹿絵葉書（白鹿記念酒造博物館）、座蒲団（近藤淑子）、学校災害復旧建築記念誌・翰玉古状手習鑑ほか（木下幸一）、乱れ籠（近藤淑子）、千人針・日章旗（西尾文晴）、出征幟・盆（三好よし子）、もんどり（鹿塩健一）、山崎萬寿夫氏画「香爐園風景」油絵（今林澄子）、盛徳講道具一括・行者講道具（松田忠男）、農具一括ほか（横垣内真澄）、（伝）甲東村上ヶ原出土古墳時代遺物（中迫博英）、津門稲荷町9遺跡出土遺物一括・ふろぐわ（大和孝治）、越木岩新田関係文書（小濱富一）、鳴尾村関係文書（奥浦益文）、火消し壺・十能・のこぎり（竹市相子）、天秤ばかり・竿ばかり・せいろほか（大西邦浩）、焼夷弾・日章旗・陸軍帽・支那事変従軍記章・勲八等白色桐葉章・出征写真ほか（吉井裕）、文書（奥田成文堂）、尼崎藩札・婿入婚礼写真（木村千代子）、老夫婦人形セット・装飾品類（坂下勝啓）、阪神パーク閉園記念品（阪神パーク甲子園住宅遊園）、藩札等（名塩南台フォンテテニスクラブ辻勝弘）、表彰状・感謝状（吉井裕）、天保十三年質素儉約触書及び村中連判帳他古文書一括（山田博子）、張り板（小田乃子）、紅野芳雄氏遺品一括（紅野美美子）、考古小録稿本外一括（紅野英二）、湯のし釜（藤本勇）、さおはかり（岡田宗彦）、粉ミルク缶（高室峯子）
ご寄贈ありがとうございました。

目次 CONTENTS

郷土史学習会について（宮原 彩）…1

寄贈資料一覧…8
